

## 令和5年度 射水市協働のまちづくり推進会議 会議録

### 1 開催日時

令和6年1月23日（火）午前10時から午前11時30分まで

### 2 開催場所

射水市役所2階 201会議室

### 3 出席者

委員 奥 敬一会長、松本吉晴副会長、春日哲男委員、神村 佑委員、  
齊藤まゆ美委員、町野美香委員、宮田雅人委員  
(8名中、7名出席)

事務局 長谷川市民生活部長、菅原市民生活部次長、齊木市民活躍・文化課長、  
南課長補佐、角崎主任、細谷主事

### 4 欠席者 三浦美樹委員

### 5 議題及び会議結果

#### (1) 開会

長谷川市民生活部長挨拶

#### (2) 議題

##### ① 協働のまちづくり事業について

協働のまちづくり事業について、事務局から説明した。

##### ② 提案型市民協働事業について

ア 提案型市民協働事業の評価結果について（令和4年度）

提案型市民協働事業の評価結果について、事務局から説明した。

イ 公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について

公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について、事務局から説明した。

#### (3) 閉会

## 6 会議資料

- 資料1 協働のまちづくり事業について
- 資料2 令和4年度提案型市民協働事業評価結果
- 資料3 公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について
- 参考1 令和6年射水市公募提案型市民協働事業応募の手引き
- 参考2 公募提案型・地域提案型市民協働事業採択一覧
- 参考3 射水市内NPO法人一覧
- 参考4 射水市協働のまちづくり推進会議設置要綱
- 参考5 射水市協働のまちづくり推進会議委員名簿

## 7 会議の経過（要点）

### (1) 協働のまちづくり事業について

#### 【委員】

まちづくり談話室（仮）だが、21名の参加（まちづくりネットワークの運営を除くと13名の参加）があった。特に団体等に所属していない個人の方の参加等もあり、大変有意義な会であった。（仮）という名称は、今後会を実施していく中で参加者で名称を定めていきたいという思いがある。

#### 【委員】

1 ページ目の地域提案型市民協働事業における放生津地域振興会の「みんなで考えよう！自主防災の必要性」について、今年1月1日の能登半島地震の際に何か活かされたものがあったのか、また、2ページの結ネットの災害時の安否確認機能がどのように活用されたのか教えてほしい。

#### 【事務局】

1 点目については地域から実績を頂いていないが、実績報告の中でどのように活かされたかについてを検証していきたいと考えている。

2 点目については、現在結ネットの運営事業者を確認中であるが、現状、射水市では3件程度安否確認の発信があったと聞いている。今後災害時の活用方法を参考とするため、情報を収集し検証していきたいと考えている。

#### 【委員】

結ネットを災害時にいかに機能させるかはとても重要なこと。しっかりと検証し、市の防災担当にもしっかりと伝えてほしい。

#### 【委員】

結ネットで発信された情報が直接市で確認できる体制になっていないということか。

#### 【事務局】

結ネットの情報の発信については、地域の方がするものなので、市では把握できないものとなっている。事業者を確認しないと分からない。現在、県内でどのように結ネットが活用されていたのか情報を収集しているところである。

【委員】

各地域の情報が結ネットを通じて、即座に市に伝わるという機能がないというのは課題が残るのではないか。

【委員】

結ネットで発信されている情報を日頃から市が把握していないということか。地域ならではの情報というのは地域活動の貴重な情報であり、それをもとに各地域の地域ならではの活動を把握することができるのではないか。その情報を基に地域に対し適切な支援の検討もできるものと考えられる。結ネットを推奨しているのであれば、市としてどのような情報が発信されているかは把握されるべきだと思う。

【事務局】

今回の災害の発生により、災害時の結ネットの活用ということに改めて気づかされた。これまでは、回覧板の電子化ということに重きをおいていた。今回のご意見も踏まえ、結ネットの事業者への委託のあり方についても検討していきたい。災害に関しては、結ネットのほかに市の公式LINEを通じて情報の発信等もしている。そのあたりも含め、災害時の情報発信・情報収集のあり方を検討していきたい。

【委員】

3 ページ公募提案型市民協働事業の制服の受け渡しについてだが、9月の市環境課主催の環境フェアでの実施を皮切りに毎月実施している。この事業については想像以上に市の担当者に支援・助力を頂き、協働ができていたものと感じる。協働における事業の進め方で重要なのは計画段階で市の関係課ができること・できないことを明確に伝えながら伴走して進めていくことだと思う。

【委員】

6 ページの女性の地域活動参加の促進は非常にいい取り組みだと思う反面、参加者が非常に少ないものと感じる。女性の活躍をより活性化させていく必要があると感じるが、今後どのように展開していくのか。

【事務局】

資料掲載の1回目のセミナーについては15名の募集があり、当日は5名欠席で10名の出席だった。第2回のセミナーは30名を定員として募集しており、現状4名の募集がある状況である。参加人数が少ないことは課題と捉えており、地域の女性団体の周知等を通じて参加者の人数を増やせるよう取り組んでいきたい。また1回目の参加者に引き続き参加し続けて頂けるよう取り組んでいきたい。

(2) 提案型市民協働事業について

ア 提案型市民協働事業の評価結果について（令和4年度）

【委員】

この評価は担当課がしていると思うが、この評価は担当課の評価が全てなのか。評価基準の統一するようなことはやっているのか。それぞれの課がどのような基準で評価するか情報共有を図れるようにしてもいいのではないかと思う。

【事務局】

現在は、担当課の評価が全てである。

【委員】

現状の評価方法で何か問題を感じる部分があるか。

【委員】

評価結果を見ていると、、すべてがAに近い評価となっている。もう少しシビアな評価があってもいいのではないかと思っている。そうすることでそれぞれの事業がより洗練されていくと思う。

【事務局】

承った意見については、今後の評価方法を検討する中で、参考にさせていただきたく思う。

【委員】

行った事業が市の施策に取り入れられて継続される可能性もあると思うが、そういう時の基準として自主的評価ではなく第三者的な評価が必要になるのではないかと感じる。

【事務局】

昨年度、委員から担当課の関わり合いが見えないというご指摘をいただき、担当課用の評価シートに担当課が目指した役割についてという項目を増やして対応した。今ご指摘頂いたものは、担当課としての今後の対応の項目でより詳しく今後の施策について記載していくべきところかと思うので、担当課には今回の意見を伝えた上で、事業の継続に向けた改善点等も記載するよう促していきたい。

イ 公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について

奥会長、春日委員、松本委員、齊藤委員の4名が選任された。

午前11時30分閉会